

# 「天草大王」の復元



復元した天草大王

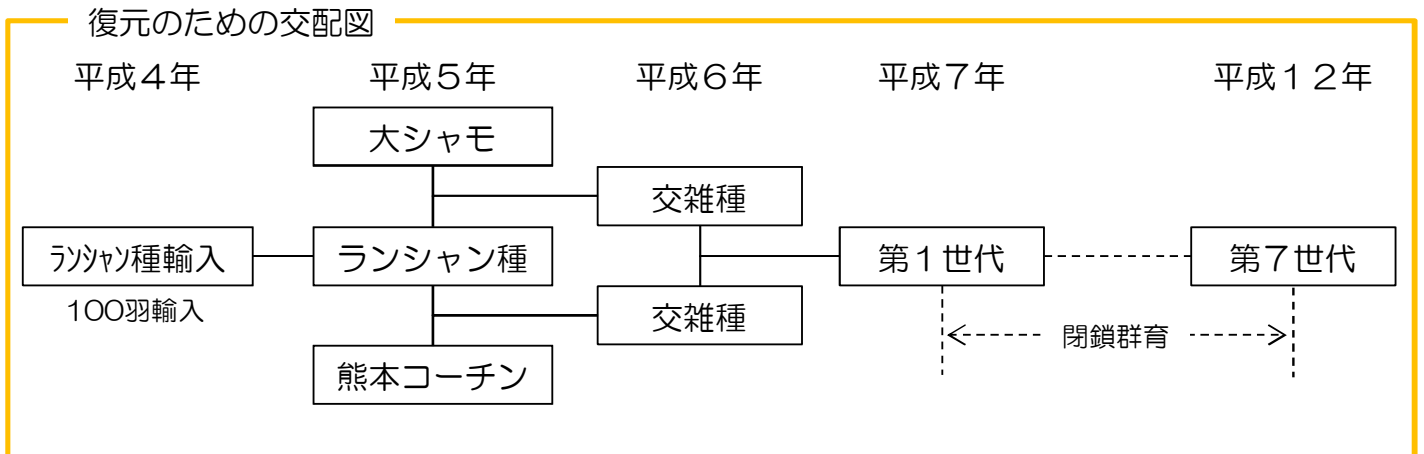
## 問 研究のねらいは？

答 天草大王は、明治時代に輸入された中国原産のランシャン種に天草地方で飼われていたシャモやコーチンを交配して作出された肉用種です。

羽色は褐色に黒色が混じる濃狸々（のうしょうじょう）色で、単冠、赤色<sup>せきしよくじだ</sup>耳朶、脚が長く、背は短く頸と尾が直立し、ランシャン種に酷似した体型で、極めて大きく、雄の大きいものでは、体重6.3kgから6.8kgに達したといわれています。肉は柔軟で白色を呈し、肉量に富んでいるため、一時は水炊き用として県外まで流通していたといわれますが、大型種のため、産卵率が低く、卵肉兼用種が主流となった昭和初期頃に残念ながら絶滅してしまいました。

## 問 この技術の特徴は？

答 平成4年から下記図のような交配を行いながら復元しました。



## 問 現在の状況は？

答 第19世代となり、基礎鶏であるランシャン種、大シャモ、熊本コーチンの成体重を上回り、羽色も天草大王特有の濃狸々色を呈し、雄は平均体重で6.0kg、最大で7.5kgに達しています。

